

## 管、及び口径別の適用範囲

管 別	口 径						備 考
	φ50未満	φ50	φ75	φ100	φ150	φ200以上	
基幹管路						GX管	
重要給水施設配水管・ JR、国道推進部		HPPE管	HPPE管、GX管	HPPE管、GX管	HPPE管、GX管	HPPE管、GX管	
配水管・導水管		HPPE管	HPPE管	HPPE管	HPPE管	HPPE管、GX管	
給水管	HI-VP管	HI-VP管	給水協議により決定。				HPPE管の採用について、 改めて検討していく予定。

### 本適用範囲に関する留意点

- 1) 配水管（市に寄附採納されるものも含む）等の新設、又は布設替時における管の選定については、この適用を原則とする。
- 2) 重要給水施設配水管・JR、国道推進部のφ75以上については、現場状況に応じてHPPE管、又はGX管のどちらかを選定する。
- 3) 配水管・導水管のφ200以上については、現場状況等を確認してHPPE管、又はGX管のどちらかを選定する。
- 4) 河川及び水路等の添架管は、従来どおり鋼管を含めて管種を検討して選定する。
- 5) 給水管への採用については、引き続き配水管などの使用状況を確認しながら改めて検討する。
- 6) 次の場合は、本適用に関わらずGX管を採用する。
  - ・ 基幹管路及び配水管φ200以上の铸铁管路から分岐するφ75以上の管路の第一バルブまでの区間、既設GX、又はNSなどの铸铁管路における短区間での切廻し工事箇所、水路下越部などでHPPE管での施工が難しい箇所、溶剤防護スリーブを使用しても有機溶剤の浸透が懸念される箇所、適切な埋設深が確保できず管防護も難しい箇所、他工事による破損等が著しく懸念される箇所、その他GX管で施工することが適切な箇所。